

富山湾でみつかったシマメノウフネガイ

高山 茂樹

魚津水族館 〒937-0857富山県魚津市三ヶ1390

The First Records of Slipper Shell *Crepidula onyx* from Toyama Bay

Shigeki Takayama

Uozu Aquarium, Sanga 1390, Uozu-shi, Toyama 937-0857, Japan

はじめに

シマメノウフネガイ *Crepidula onyx* Sowerby, 1814 は、軟体動物門腹足綱カリバサガイ科に属する巻貝で、潮間帯から水深20m付近に生息するアカニシ類やアワビ類、アズマニシキ類、ナミガイ類の貝殻の上で着生生活をする。キクスズメガイ *Hipponix conica* (Schumacher, 1817) 同様、付着した貝の排泄物を食べ、本種とキクスズメガイとは競合関係にある。本種は、北アメリカ西岸を原産地とする外来種で、日本では、1968年に神奈川県三浦半島岩浦で初めて生息が確認された(間瀬, 1969)。その後、東京湾を中心に分布を広げ、現在、太平洋沿岸では、福島県から本州沿岸、瀬戸内海、有明海、伊豆諸島にまで生息域を広げた。また、日本海沿岸では、山口県から島根県まで生息している(肥後・後藤, 1993)。

富山県でこれまで行なわれた調査からは、シマメノウフネガイは記録されていない(布村, 1988; 布村・宮本, 1994; 小林・布村, 1999)。しかしながら、著者は1999年に富山市岩瀬浜の打ち上げ貝の中から、本種の死殻を採集した。また、1999年8月27日に富山市科学文化センターで開催された標本の名前を調べる会において、同定に持ちこまれた氷見産の打ち上げ貝の中からも本種を確認した(高山, 未発表)。その後、2000年1月と2月の2度にわたり、新湊市沖から採集された生きたシマメノウフネガイが付着したサザエを譲り受けた。以上より、シマメノウフネガイが富山湾に

分布を広げたと考えられるので報告する。

確認個体について

採集日 2000年2月10日

採集場所 新湊沖 (正確な位置は不明)

確認個体

No. 1 殻長: 26.7mm 殻幅: 19.8mm (写真1-右)

No. 2 殻長: 20.4mm 殻幅: 14.0mm (写真1-左)

No. 3 殻長: 16.0mm 殻幅: 10.7mm

No. 4 殻長: 16.8mm 殻幅: 11.2mm

付着していた貝 サザエ

殻高: 85.9mm 殻幅: 74.4mm

付着状況について

今回確認したサザエは、1個体のサザエの貝殻に4個体のシマメノウフネガイが付着していた。4個体の内、最も大きいNo. 1の上に小さいNo. 2が付着しており、No. 1がメス、No. 2がオスと考えられる(写真2)。また、本種の付着したサザエは、蓄養されていたサザエ30個体の内の5個体であった。その後も、越後俊之の協力で、新湊市沖のサザエにおける本種の確認を試みているが、未だ新たに確認していない。

新湊での確認例が少ないことや富山市岩瀬、氷見での打ち上げ貝の採集例もごくわずかなことから、富山県での本種の生息密度は未だ低いと考えられる。しかしながら、太平洋沿岸では、競合す

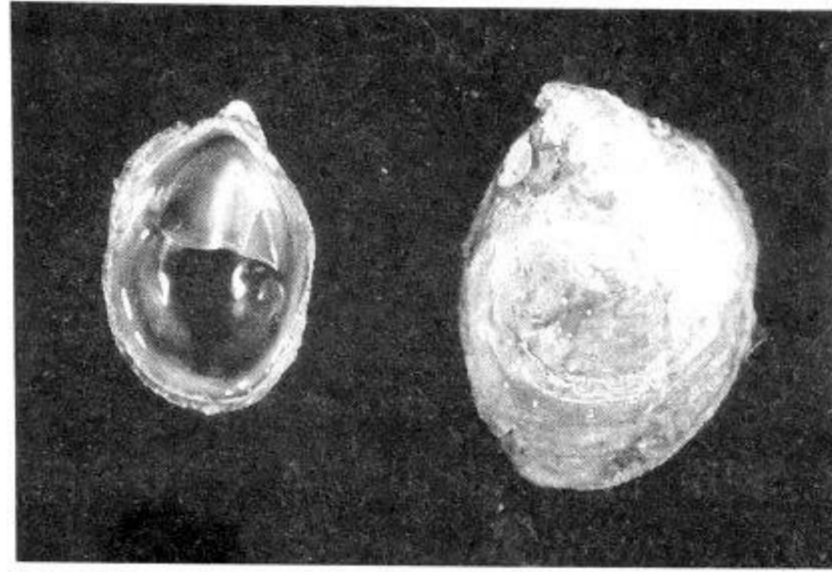


写真1 右—No. 1個体背側 左—No. 2個体腹側

る在来種のキクスズメガイと本種の割合が逆転し、本種が多い場所も見られる。今後の、富山湾における本種の動向を見守る必要がある。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、快く標本を提供していただいた越後俊之氏に感謝する。

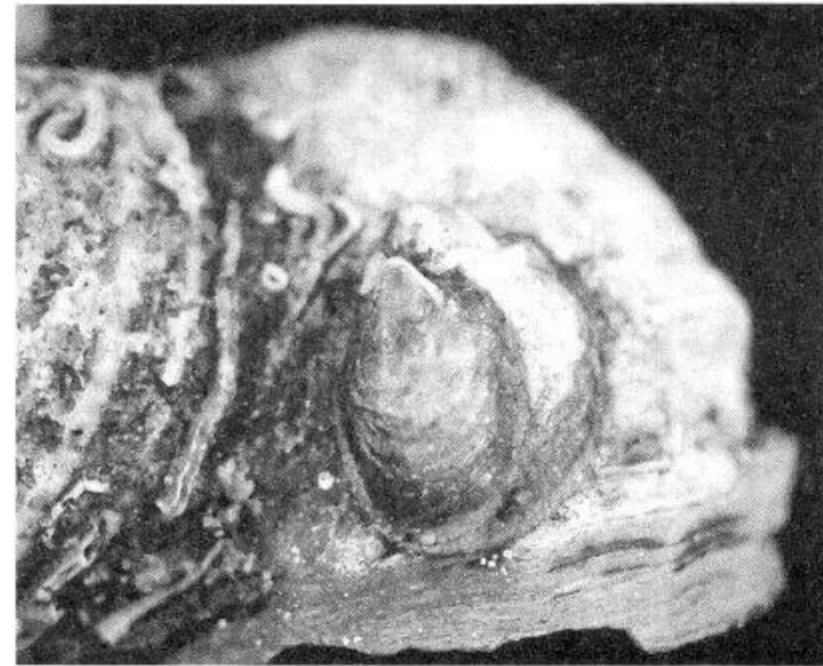


写真2 サザエの殻口近くに付着したシマメノウフネガイ

文 献

- 小林茂雄・布村昇. 1999. 海産貝類リスト. 氷見市史9資料編7自然環境, 506pp. 氷見市史編さん委員会, 氷見市.
- 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録, 880pp. (株)エル貝類出版, 大阪.
- 間瀬欣弥. 1969. 相模でとれた. ネコゼフネガイ. ちりぼたん. 5(6): 156-157.
- 布村昇編. 1988. 富山と能登の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録. 2: 1-128.
- 布村昇・宮本望編. 1994. 富山市の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録. 7: 1-95.
- (2000年12月28日受理)

キヨズミオオクジャクシダ、オオクジャクシダ、ハコネオオクジャクシダ 3分類群の識別点について

中川 定一

〒935-0004 富山県氷見市北大町13-47

A Note for Identification on 3 Taxa of *Dryopteris namegatae* (Kurata)
Kurata, *D. dickinsii* (Fr. et Sav.) C.Chr. and *Dryopteris* × *hakonecola* Kurata

Teiich Nakagawa

Kita-oomachi 13-47, Himi-shi, Toyama 935-0004, JAPAN

はじめに

キヨズミオオクジャクシダ、オオクジャクシダは能登半島に多いたく、能登の植物(小牧, 1987)を見ても、少ないとか希少とは書かれていない。オオクジャクシダについては、富山、石川両県ともに多いたく分布情報を記録した文書も多い。さらに、オオクジャクシダとオクマワラビとの雑種としてハコネオオクジャクシダが知られ、これがキヨズミオオクジャクシダとも形態が似ているために慣れないと分類することが困難である。筆者は平成12年2月から、富山県氷見市鞍川および脇において上記3種の形態を比較し、識別することができたので、その結果を報告する。なお、ハコネオオクジャクシダの発見は1998年冬である。

3種の概略(表1)

・キヨズミオオクジャクシダ

富山県内のキヨズミオオクジャクシダの産地は、これまで上市町1ヶ所(倉田・中池, 1985)しか知られていないため、太田(1999)は、本種を富山県における絶滅危惧I B類にランクしている。能登地方では、石川県七尾市、鹿島町、鳥屋町など5ヶ所の産地がある。

今回新たに筆者が採集した氷見市の産地は脇地内、七尾市や鹿島町に近い所である。葉の形は小牧(1987)の図と同じであり、下の羽片があまり小さくならない。また、黒色の鱗片の宿存(長く鱗片が残る意味)する特徴(倉田・中池, 1985)にも当てはまるので、キヨズミオオクジャクシダであると確信した。

生育環境は腐葉土の多い急な斜面で、まばらな雑木やリョウメンシダなどがあつた。証拠標本は富山市科学文化センター(TOYA)に納めた。

・オオクジャクシダ

富山県内の産地はやや多い。しかし、普通の山歩きでは年に1~2回ぐらい出会うぐらいだから、希少種である。氷見市における生育地は、仏生寺、堀田などの湧き水が流れている杉林の林縁で、葉の形、ソーラスは小牧(1987)の図と同じで、下の羽片が徐々に小さくなる。

・ハコネオオクジャクシダ

(オオクジャクシダ×オクマワラビ)

筆者は、鱗片の黒味がやや不足しているこのシダを初めはキヨズミオオクジャクシダと思っていたが、2000年11月に鱗片が脱落してなくなっていることに気づき、キヨズミオオクジャクシダではないことが判明した。

ハコネオオクジャクシダの下方の羽片の鋸歯は、オオクジャクシダよりハコネオオクジャクシダのほうが深く(図2, 3)、小羽片の脈の数が多(図1)。

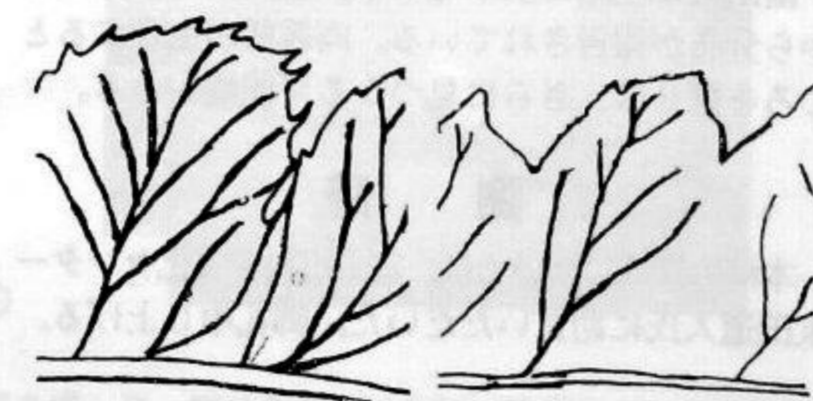


図1 ハコネオオクジャクシダとオオクジャクシダの羽片の脈の様子